

算数

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

小学校算数科においては、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさに気付き、算数と日常生活との関連についての理解を深め、算数を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

【『小学校学習指導要領解説（算数編）「改訂の趣旨」』を踏まえた課題】

・児童が自ら問題を見いだす機会を設ける等、数学的活動の一層の充実

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待つ	語らせつないで	認め励ます
<p>■児童が主体となって問題解決を目指す授業展開</p> <p>問題を解きたいと思い、子ども同士が学び合うことで、新しい考えを学ぶことができるような授業を展開する。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたくなるような工夫した学習のねらいの設定。 ・すべての子どもが自分の考えがもてるような具体物や図を共通にもたせて交流や発表を行う。 	<p>■友達の考えの共有</p> <p>考えを共有する場面を設けた言語活動の充実を図る。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明し合ひましょう」ではなく、「どうして～なのですか。」「どのように考えたのですか。」と問いかける。 ・子どもの発表に対して適切な「問い返し」を入れる。 <p>例)「この説明、みんなできますか。」「なぜその式なのですか。」「図を基に説明して。」等</p>	<p>■児童の様子を見取り、適切な声掛け</p> <p>言語活動、観察・実験、問題解決的な学習などで、生徒の様子を見取り、励ますことで、学習目標の実現につなげる。</p> <p>◇手立ての例</p> <p>「～のときに使えるね」等、学習したことが日常に生かせそうだと児童が感じるような声掛けを行い、学習の意欲付けを図る。</p>

算数は、学んだことが次の授業で使えることが多い教科です。子どもが自身の学びや変容を自覚できる場面を設け、「できた。わかった。」といった実感がもてる授業を充実させて、学習意欲を高めていきましょう。



○ ICTの活用について

具体的な体験を伴う学習等を通じて、児童に算数の論理を理解させることが大切であり、ICTを活用する場面を適切に選択することが必要です。

【表・グラフの学習での活用】

- ・同じデータでも、違う見え方をするグラフに簡単に変えることができる。
- ・目的に応じてグラフを選ばせたり、新たな疑問の解決のためにグラフを変化させたりする。

【図形領域の学習での活用】

- ・図形を動的に変化させることで、図形についての感覚を豊かにすることができる。
- ・変化の中での気付きから授業を展開する。

【デジタル教科書の活用】

- ・学習者用のデジタル教科書に直接書き込み、保存することができる。

【帯グラフの学習の活用例】（5年 円グラフや帯グラフ）

- ・自分の主張を適切に表すグラフを見付ける。

